

## 和船を活かした河川観光舟運

出口 晶子

出口 正登

### 1 はじめに一岐阜市の戦略的取組み

「此夕鵜飼ヲ長良川ニ観ル。鮎ノ味モ未ダシ、遊覧船モ亦十隻ニ満タズ。然レドモ鵜飼ノ実況ヲ見ルニハ最モ適当ナリキ。夜陰華獄ノ麓蘆川ノ流ニ投錨シテ鵜飼ノ来降ヲ俟ツ間、河鹿ノ鳴クヲ聞ク。其声鶴唳トシテ実ニ心神静幽ヲ覚ユ。忽チニシテ東天ニ灯紅ヲ認め、鵜ヲ激励スルノ声櫓ノ響ト相応ジ、篝火ハ清流ニ映ジテ美観名状スベカラズ。実ニ一タノ清遊ナリキ。」[平生2010：114]。

これは、甲南学園の創設者平生鈺三郎が、1914年（大正3）6月14日、生まれ故郷・岐阜の加納に展墓のため赴き、両親・祖先の霊にお詣りした日の日記である。姉妹兄弟が久しぶりに一同に会して歓談したその夜、長良川の鵜飼を見物した。金華山の北麓に水を集め西へ流れ下る川に投錨し、鵜飼が降りてくるのを待つ間、清流にすむカジカガエルの、まるで鶴のような鳴き声、東の方角から鵜を励ます鵜匠の声とともに、鵜飼舟をこぎうつ木の響きと水うつ響き、水面にうかぶ篝火、そのいずれもが終生川魚への郷愁を持ち続けた鈺三郎にとってふるさとを象徴する景色であった。このわずか数行の日記から、今日の我々は100年前すでに岐阜の鵜飼遊覧が定着していたことを読み取ることができる。鵜飼は、水田稲作農耕文化とともに中国より伝えられたとされ、列島各地に伝わった漁法のひとつと考えられている [可見1966]。それが漁業から一般の人々が楽しめる遊覧観光へとシフトしていくのは、およそ明治中期以降のことである。岐阜では、明治30年代には市の補助金をえて鵜飼遊船株式会社が新たに発足しており、1927年（昭和2）には岐阜市に移管され、市営事業として運営されるようになった [片野1953：77-79]。岐阜市の場合、市営による遊覧船事業が、およそ90年前とじつに早くから着手されていたのである。

2015年3月、「長良川の鵜飼漁の技術」は国の重要



写真1 岐阜の鵜飼観覧船造船所

無形民俗文化財に指定された。岐阜市長良と関市小瀬の伝統鵜飼の人と技能にたいする文化財価値が認められたもので、地元ではさらに「この先」、すなわちユネスコの世界無形文化遺産登録を視野にいれた10年にわたるアクションプランを策定し、着々と活動を進めている。ユネスコの世界遺産への道のりには、国内における行政・市民一体となった持続的取組みが問われる。素潜りでアワビやサザエ、ウニなどをとる鳥羽志摩の海女も2014年三重県の無形文化財に指定されており、今後ユネスコの世界無形文化遺産にむけた同様の動きが進められるはずである。いいかえると鵜飼は生業にかかわる民俗技術の無形文化遺産化として一步他をリードしている。

岐阜の取組みは、河川観光舟運の角度からみても戦略的である。

鵜飼の場合、無形民俗文化財の保持者は鵜を調教し、手縄をさばいて鵜に魚をとらせる漁を伝承する鵜匠たちであり、宮内庁の式部職として、世襲でその技を伝えてきた。長良6名、小瀬3名は国家公務員として鵜飼の仕事につかさどり、御料場でとれた鮎は皇居ならびに明治神宮や伊勢神宮に献上・奉納される慣わしが今も続けられているという。農林水産業の技術が国の重要無形民俗文化財の指定をうけるのは国内でもはじ

めてのことだという。神楽などの芸能や祭礼では多くの指定がある一方、生産・生業・衣食住とかかわる民俗技術の無形文化財はこれまで青森の和船や佐渡のたらい舟技術、能登揚浜の製塩技術などわずか13件にとどまる。時代や社会の変質とともに変化する生業の技術は、本来遺産化になじまず、完成度の高い型を守って継承することが難しい領域なのである。

この難題を岐阜の鵜飼が可能にしたのは、魚を獲る生業の技を、見物客を前に「見せる漁業」=見せ鵜飼へとシフトし、さらに明治中期以降鵜飼観光を市営事業として制度的に守ってきたことがあげられる。注目すべきは鵜匠の技の伝承とともに、鵜飼に使われる在来の木造船の操船技術や造船技術の継承にも同様の力を注いでいる点である。2010年（平成22）3月には鵜匠家に伝承される鮎鮎製造技術とともに、長良川鵜飼観覧船の造船技術が岐阜市の重要無形民俗文化財として指定され、4名の舟大工の文化財保持者が生まれた。さらに2012年（平成24）3月には長良川鵜飼観覧船の操船技術が岐阜市の重要無形民俗文化財に指定された。後継者育成のため、16歳以上の健康な男女を対象に、鵜飼観覧船の操船や乗船客への案内業務をおこなう船員を市で公募し、その育成事業にも着手している。2014年（平成26）には金華山、その西麓の城下町、鵜飼水域等を含む長良川中流域における岐阜の文化的景観が国の重要文化的景観に指定された。鵜飼用具や漁法についてはそれ以前に国や市の文化財指定がなされていたが、2008年（平成20）以降その取組みは加速し、目下ユネスコの無形文化遺産登録に照準があわされている。モノ・人・技・町を分断することなく、有形無形を含めた保全の仕組みを行政のリードによって整えながら、鵜飼とそれにかかわる技術を幅広く保護育成しようとする活動は他に類をみない独自性があり、先進的な取組みとなっている。

## 2 河川観光舟運の現況—列島を俯瞰する

1997年（平成9）の河川法改正以降、日本の河川では従来の治水や利水に加えて、河川環境の整備や保全が河川管理に求められることとなった。流域の歴史文化やまちづくりの観点からも住民の積極的な参加を促し、今まで以上に流域住民や市民の手で川づくりを進めていく社会的要請がある。近代以降、人々の暮らしは、洪水等に悩まされることが大幅に減ったものの、川と暮らしの接点も急速に失われたことにたいして、復権を願う声が高まってきたのである。そこでは河川

敷における散歩や野球・ゲートボールといった利活用にとどまらず、川中へ入る活動をも一部の漁業者や遊覧業者に限定せず、促進していくことが求められている。また1995年の阪神淡路大震災の教訓をうけ、川が本来有した交通路としての機能を保持することが危機管理には重要であること、そのためには停泊可能な船の発着場を増設し、非常時に十分機能しうよう、平時でも利用することの重要性が強く意識されるようになった。日本最大の琵琶湖をもつ滋賀県でも震災前の防災計画には湖上活用がもりこまれていなかったが、震災後、県が所有する学習船「うみのこ」や民間が有する大型客船を避難所や救護所に活用し、漁船なども緊急物資の輸送船として利用できるようにする協定方針がうちだされている〔出口1997：14〕。

こうした動きと連動し、現代日本の河川でもっとも目に見えて推進された水面利用の活動のひとつが遊覧事業である。河川法改正後、この10年あまりの間にNPO法人等の資格で実施されるようになった川での新規遊覧事業は数多く、60箇所以上にのぼる。我々は、それらの動向に注目し、2010年以降全国の諸河川にみる観光舟運の実態と課題、その方向性を共同で実地調査研究してきた。

その結果、2015年末現在、日本国内で実施されている河川観光舟運は、およそ200箇所におよぶ。このうち約8割については、実地に乗船観察し、聞き取り等によりその実情と課題を調査した。本論ではNPO・会社・行政・個人委託を問わず、現在観光事業として実施されているもの、地域の交通手段が観光にも結びついている事例を含めとりあげている。

また長年のライフワークである木造船文化の視点から観光舟運を回路とした技術継承のあり方についても検討を進め、列島全体を俯瞰した動向と課題を抽出した。2010年から本格調査した河川舟運の実態は、分布図1、表1のとおりである。この間に廃止になったものは図表には含んでいないが、休止しているものは含まれており、その諸状況について本論で分析していく。

まず、日本における河川観光舟運の形態は、およそ以下の4つ、①鵜飼、②渡し、③舟下り、④船めぐりがある。

### ① 鵜飼

鵜飼を見せる遊覧船事業は、木曾川・長良川・宇治川・大堰川・有田川・江の川・錦川・肱川・筑後川本流・三隅川の10河川14箇所ほど存在する。鵜飼の継承者は、県や市の文化財指定が進められているが、もっとも手厚く実施されているのは、冒頭でとりあげた岐



表1 日本の河川観光舟運

地方	県	番号	場所	形態	運営内容	
北海道地方	北海道	1	洞爺湖	遊覧	火山噴火でできたカルデラ湖で、通年運航、春から秋は湖中の中島に下船できる。島には3頭から増えた鹿が生息。羊蹄山が遠くにそびえ、有珠山、昭和新山の眺望が湖上よりえられる。50分、1320円、2013年調査。	
		2	尻別川	川下り	ニセコ町2キロ40分、1便ごと完全貸切予約制で無休。激流下りではなく、遊河と名づけられ、安心安全な清流下り、年齢等の制限もない。ほかにラフティングもあり。	
		3	小樽運河	クルーズ	40分、赤レンガの倉庫群の並ぶ運河と港をめぐる。2009年7月から運航開始、海外からの観光客も多く、外国人ガイドもいる。いまや運河観光として定着した。1500円、10月末までの季節運航だったが、現在は冬季も実施されている。2013年調査。	
		4	サロマ湖	アザラシ観光船	20キロの砂州(ワッカ)でオホーツク海と隔てられた潟湖。ホタテの養殖、アザラシ、ホオジロワシの生息で知られる。5月上旬～10月末まで運航、1周1時間3500円(2015年現在)、ワッカ・栄浦コースもある。2008年5月より運航。	
		5	支笏湖	遊覧	平均水深226mと水深の深いカルデラ湖であるため、日本最北の不凍湖。観光船の運航は1961年。4月中旬～11月上旬まで、水中遊覧船は30分で1200円、柱状節理の岩場が見どころ。その他高速艇、ペダルボートあり。2013年調査。	
		6	屈斜路湖	回遊航路	道内一の規模をもつカルデラ湖、4月下旬～10月中旬、30分(1260円:2015年現在)コースと50分コースがある。	
		7	阿寒湖	遊覧	18キロ85分、1850円(2015年現在)、5月～11月中旬。マリモ観覧あり。	
		8	然別湖	遊覧	大雪山国立公園の南に位置する自然湖。一周40分、1000円(2015年現在)。	
		9	朱鞠内湖	遊覧	5月中旬～10月下旬、35分、800円(2015年現在)、このほか貸しボートあり。	
		10	大沼	遊覧	1周30分、960円、4月～12月で不定期運航の期間あり。このほかモーターボート、カナディアンカヌー、散策コースあり。湖面に映る駒ヶ岳の紅葉が美しい。2010・2013年調査。	
東北地方	青森県	1	十和田湖	遊覧	休屋一子ノ口航路と遊覧コース、4月～11月、1400円、駐車場は有料。かつてはにぎわったのだろうが、廃墟のままの宿もある。二重カルデラ湖の景勝地、子ノ口からは奥入瀬溪流につながる。2014年調査。	
		岩手県	1	滝ダム湖	ダム湖遊覧	久慈市・長内川のダム湖で、40分、700円(2015年現在)。「海に見えるダム」が特色。
			2	北上川	花見遊覧・渡し	4月中旬から5月はじめの桜の時期限定の遊覧と渡し。遊覧は2キロ、20分、1000円で展勝地入江～珊瑚橋を周遊。渡しは北上駅に近い西岸と東岸の展勝地を結び、片道350円。入江には復元された北上川水運の木造ヒラタ舟が浮かぶ。2009年調査。
	宮城県	3	砂鉄川(北上川支流)	狛鼻溪舟下り	一関市東山町長坂、狛鼻溪駅下車10分、90分、1500円で往復4キロを木造船でゆく静かな渓谷美。日本百景の一つで、命名100年を迎えた。親子2代の船頭もいる。宮沢賢治がセメント工場に勤めたころの話も聞ける。2010年調査。	
		1	北上川	山田の渡し	石巻市樫崎と山田を結ぶ。渡しの看板もなく地元の人用。人はいなかった。登米市豊里の渡しは2010年6月廃止。2010年調査。	
		2	北上川・石巻湾	周遊	石巻市、リバーフレンド号、震災で10キロ上流で見つかった。青森で修復、2013年進水式がおこなわれたが、岸壁が修復されていないため、運航は休止状態という。	
		3	釜房ダム	ダックツアー	柴田郡川崎町小野、名取川水系のダム湖で陸上あわせ70分、大人3000円。2015年現在運休中。	
	秋田県	4	阿武隈川	阿武隈ライン下り	8キロ60分、1600円、通年、丸森町下滝、周遊コース、舟下りコースあり。増水しており、乗客は1人だったが、運航。2010年調査。	
		1	雄物川	悠久ライン	秋田市華の里棧橋～新屋棧橋まで16キロ片道1時間2000円、往復3000円。2007年12月開始、2010年はじめに一時運休、4月開始。乗客がまとまらないと1名だけでは出ないとのこと。2010年調査。その後の詳細は不明。	
		2	太平湖	小又峡遊覧	米代川水系の北秋田市に位置する森吉ダムの完成でできた人造湖。6月から11月まで運航、1100円(2015年現在)。行き30分、帰り15分。阿仁原生林の新緑や紅葉、注ぎ込む渓谷溪流美が楽しめる。	
山形県	3	田沢湖	遊覧	40分1周、1200円(2015年現在)、4月末から11月初めまで。タツコヒメの伝説がある深さが423mと日本一深いカルデラ湖。1990年調査。		
	1	最上川	舟下り	2社あり、戸沢村古口、芭蕉ライン下り12キロ60分、1970円、帰りは公共バス、通年運航。戸沢村草薙にある義経ロマン観光の舟下りは遊覧コース70分で、1930円、仙入堂に上陸できる。芭蕉の俳句と「おしん」は船頭話に欠かせない。対岸地域は無住化が進む。2010年調査。		
	2	最上川	舟下り	村山市基点橋、三難所舟下り所要50分、帰りはバスで送迎。		
福島県	1	只見川	山峡下り	舟下り	鶴岡市を流れる赤川水系の内川、モガリ舟で4月桜シーズンの期間限定。棹こぎで500円。	
				早戸温泉つるの湯～水沼・宮下、不定期運航で冬場は運休、10名以上参集時に随時運航、60分、1500円。2014年調査。		

地方	県	番号	場所	形態	運営内容
東北地方	福島県	2	只見川	霧幻峡の渡し	2008年から金山町三更集落霧幻峡プロジェクトチームにより再現。昔の生活の足だった渡しを45年ぶりに復活させた。早戸温泉から霧幻峡、片道15分。4月末日～11月下旬までの予約時のみ就航、片道300円、往復500円。3日前の予約で5名以上。1人客には向かない。練り漕である大漕による操船。三更集落は硫黄の鉱山開発が盛んだったが、崩落により集落は集団移転となり、廃村となった場所。舟は2艘、T字の漕と棹、接合には丸釘、鉄カスガイなどが使われている。2014年調査。
		3	檜原湖	遊覧	鳥めぐり遊覧35分、1000円、片道15分の定期船あり。5人集まらなると動かないのだが、幸い7人が集まり、乗れた。湖としては鳥が多く、変化に富んでいる。磐梯山が眼前にそびえ、鳥がいくつもある。北海道・大沼をほうふつとさせる美しいけしきだ。桧原湖は1888年の磐梯山の噴火で河川がせきとめられてできた120年ほどの若い湖。日本ジオパークに認定されており、今後はカヌーでのジオパークツーリズムも強化される見通しだ。2014年調査。
		4	猪苗代湖	遊覧	各種コースあり、4月～11月鳥めぐり、1000円。人が集まらず、乗れなかった。白鳥とカメの船。2014年調査。
		5	田子倉湖	遊覧	只見町田子倉、日本最大級の出力を誇るダム。30分、900円、5月～11月。4人集まらなると動かない。案内放送するが、人が集まらず、乗れず。2014年調査。
関東地方	茨城県	1	潮来・加藤洲	十二橋めぐり	香取市。木造のサッパ、もとは田んぼへの通いの舟に使われた。1隻5人まで40～50分コースで1人当たり1000円ほど。「乗っていけ」と女船頭さん、勧誘が上手である。アヤマ祭りの6月にはサッパ舟による櫓こぎもあり、30分1000円。橋をくぐり、狭い水路空間が楽しい。1999・2014年調査。
		2	水郷佐原	植物園遊覧	水郷佐原水生植物園、香取市、15分500円、棹をおす女船頭のサッパ。運航はゴールデンウィークから6月あやめ祭りの最終日まで。2014年9月調査時、周年で利用できるよう改装休業中。
		3	霞ヶ浦	遊覧	土浦港を基点に18キロ30分、1500円、4月から10月は日に10便、11月から3月は8便。他に周遊40分で予約制運航あり。あやめの6月土日は土浦・潮来間の舟が1便でる。水陸両用車も不定期だが就航。2014年調査。
		4	霞ヶ浦	帆引き船観光	明治期霞ヶ浦で使われるようになった帆引き船による漁を随伴船に乗って観覧する。船の両先端からはりだした出し棒一杯に白い帆が風をはらんだ姿が見物。7月下旬から11月下旬の日曜。帆引き船は木造船で漁が廃れたのち1970年に買い上げ、観光帆引きが始まった。かすみがうら市と行方市で実施、帆引き船の技術継承者を広く募っている。1999・2004年調査。
		5	利根川	<sup>オオホリ</sup> 小堀の渡し	取手市の両岸を結ぶ。地区居住者、小学生、70歳以上など条件によって無料。右岸の小堀から取手緑地運動公園、ふれあい棧橋のルート、午前9時から午後5時までで、時刻がきまっている。自転車、原付も乗れる。小堀の居住者など無料対象者以外は2014年現在、1航路100円で、2010年調査と変化なし、毎週水曜と年末年始が運休。
千葉県	1	小野川周辺	舟めぐり	香取市佐原、町並みコース1200円、通年運航。2002年4月に会社設立、関東ではじめて指定された伝建地区のただ中に誕生。棹、船頭装束は潮来の船頭と似ている。舟はサッパ型のFRP船。このほか、サッパ舟で、水の郷さわらから利根川をわたり、中江間閘門をくぐり、田浦のあやめ祭りの会場やコスモスまでの特別運航、水郷さわらの水陸両用車・ダックツアーも実施されている。2004・2014年調査。	
東京都	東京都	1	江戸川	矢切の渡し	東京都葛飾区矢切―千葉県松戸市を結ぶ。片道100円の櫓こぎ観光船。矢切は帝釈天の参道をぬけ、江戸川堤防へ、松戸側はキャベツ畑が広がる田園風景、国内でもっとも観光客の多い有料渡し。河川敷の木陰では交通安全のわらじ細工を製作販売。1999・2010年調査。
		2	横十間川	乗船・操船体験	1995年から横十間川親水公園、尾高乗船所で実施、20分、乗船無料・週1回が基本で、和船友の会が実施、ほかにイベントに協力している。2010年ほか調査。
		3	大横川	遊覧	お江戸深川さくら祭り、花見舟・500円は木造船、和船友の会協力。ほかに動力船も運航1500円前後（2015年現在）。
		4	隅田川・東京港・荒川	遊覧	複数社が浅草・両国界隈を発着の拠点とする各種コースはたいへん充実。海外の観光客の利用も多い。東京スカイツリー完成で新たな見どころが加わった。2010・15年調査。
群馬県	群馬県	1	谷田川	揚舟水郷めぐり	木造の揚舟で棹こぎ、板倉町。2キロ45分1000円。2002年から春と秋に運航。40分かけてたっぷり水郷のけしきが堪能できる。まわりに観光施設がないのがこの魅力でもある。2011年国の重要文化的景観に指定。2013年調査。
		2	利根川	赤岩の渡し	無料、埼玉県熊谷葛和田―群馬県千代田町赤岩を結ぶ。観光客が主。両岸ともバスが渡船場前で発着、船着き場も整備されている。菜の花の堤防上をグライダーが滑空している。葛和田からは黄色い旗をあげて知らせる。2011年調査。
		3	利根川	鳥渡船	伊勢崎市、赤岩同様県営、無料。5月には鳥渡船フェスタが開催され、渡船乗船や自衛隊渡河ボートによる遊覧イベントなども実施されている。2011年調査。
		4	榛名湖	遊覧	4月～11月末、不定期、700円。
栃木県	1	巴波川	蔵の街遊覧	2005年より運航開始、15分700円、棹こぎ。国指定の伝建地区の町並の一角に乗船場があり、大型観光バスでもやってくる。20人あまり乗れるFRP船で団体客にも対応し、町に定着している。船頭が栃木河岸船頭唄を披露してくれる。2013年調査。	

地方	県	番号	場所	形態	運営内容
関東地方	栃木県	2	湯西川ダム	ダックツアー	道の駅湯西川と水の郷を発着とする水陸両用バス。もとは鬼怒川上流のダム湖・川治ダムでの運航で、およそ4月から11月まで1日6便。60分、3000円。2013年7月から新たに完成した湯西川ダムに変更となる。ふだん入れないダム施設の見学もできる。
		3	中禅寺湖	遊覧	4月中旬～11月末、1周コース1200円のほか短いコースあり。2013年調査。
		4	鬼怒川	ライン下り	4月中旬～11月下旬、木造船による舟下りは2500円で約40分。2005年から65年ぶりに屋形船が復活し、屋形船は大漕港を2周する。木造船の販売も手掛ける。2013年調査。
	埼玉県	1	浮野の里	遊覧	加須市、10分200円、あやめ祭り（あやめの時期1週間限定）、田舟を用いて棹こぎ。全国水の郷百選のひとつ。
		2	小江戸川（新河岸川）	遊覧	川越市氷川町、3月下旬から4月はじめの桜の時期に実施。10分、無料。湖畔には船着き場が新たに整備された。2011年3月は中止。和船友の会が応援。
		3	荒川	長漕ライン下り、荒川ライン下り	長漕、船頭が木造船造り（船頭兼舟大工の親子）、全長6キロコース：ウォーターパーク長漕～高砂橋2900円50分、その他チャレンジ3キロコース、ロマンチック3キロコースあり。3社が運営。3キロコース1550円、ウォーターパーク長漕～長漕岩畳3キロ、30分。2011年調査。
	山梨県	1	山中湖	遊覧	河口湖・山中湖・本栖湖それぞれ20分～35分。いずれも930円で駐車場は無料。山中湖は二つの乗船場を往復する形で運航、白鳥の形をした遊覧船と水陸両用車が走る。ほかに足こぎボートや高速ボートなども多数ある。西洋的な湖水の避暑地文化が定着している。2014年調査。
		2	河口湖	遊覧	河口湖は海賊船のような形をした遊覧船。930円。山中湖に次いで富士五湖のなかでは2番目に大きい。橋がかかり、湖中に島がある。沿岸はリゾート開発が進む。富士五湖のうち、西湖や精進湖は遊覧事業はないが、貸しボートなどはさかんで、釣り客も多い。2014年調査。
		3	本栖湖	遊覧	一番西側の本栖湖は1000円札の富士山が描かれた場所である。湖岸の別荘等がすくなく、もっとも静かな湖。「もぐらん」という潜水艦のような遊覧船が運航、930円。1艘2名で運行しているため、運航中はチケット売り場は閉鎖。船底はガラスになり、湖水のヒメマスやウグイが見られる。エサをまき、群れがよってくる。静かで美しい湖。この日は湖水浴を楽しむロシア人、ペルー人の家族連れの姿が目立った。2014年調査。
	神奈川県	1	芦ノ湖	遊覧	箱根海賊船ほか箱関所跡一湖尻40分、970円。2013年調査。
		2	宮ヶ瀬湖	遊覧	相模川水系中津川に設置されたダム湖。場所は愛甲郡清川村。宮ヶ瀬～ダムサイト～鳥居原を結ぶシャトル航路が通年運航。遊覧は1周30分で不定期、1000円。ダム建設時のインクラインは、完成後ダムの上下をつなぐケーブルカーとして観光資源に役立てられ、ダム観光地として人気が高い。人が多すぎて、ダム湖につながる道路の交通渋滞が課題である。2014年調査。
		3	相模湖	遊覧	1周8キロ、25分の遊覧、800円。相模湖遊船協同組合の運営。駐車場は有料。周囲は混雑している。2014年調査。
中部地方	静岡県	1	狩野川	渡し・遊覧	我入道-あゆみ橋、1乗船100円。我入道の渡しコースは40分、400円。槽こぎ体験もできる。春秋の土日祝運航。1997年よりはじめ、2013年で16年になる。船頭は2人、木造船1隻を沼津市が建造、かつて渡し場があった景色を復活させ、河川沿いの散策路とともに整備が進んだ。槽こぎ和船、清涼な水のおい、川風、晴れた日には富士山が見える、船頭さんの人柄と話上手、総合的にみて、また乗りたくなる魅力的な遊覧船。この日は5合目まで富士山が見えた。上流のあゆみ橋側が鉄道駅と近いのは利点、我入道側に駐車スペースが整備されるとありがたい。2013年調査。
		2	井川湖	渡船	大井川鉄道時刻とつなぎ、1日4往復、本村-井川堰堤15分、静岡市営で無料、赤石丸。2013年9月は、水位低下のため運休中。棧橋となる台船が陸にはりついてた。ダムに一部沈んだとはいえ、かなりの戸数があることに興味を覚える。帰路、土砂くずれで一方の道は通行止めになった。
		3	浜名湖	今切の渡し	湖西市。弁天島海浜公園から北雁木、浜名湖の今切口を遊覧し、新居船着場まで1人1000円（2015年現在）、ただし4名以上の予約制。4月上旬から10月下旬まで運航、湖上遊覧コースもある。江戸時代関所がおかれた場所。橋の開通で戦前になくなったが、2013年復活。
		4	浜名湖	遊覧	館山寺周遊の30分コース860円（割引で780円）、60分往復コース1320円。湖上の景色は、赤石がむきだす半島の裏側、若者たちのウィンドサーフィンの練習風景など。2011～13年調査。
	長野県	1	天竜川	ライン下り	飯田市、40分～50分、2900円。天竜峡温泉港-唐笠港の区間比較的緩やかな流れをゆく。船頭が投網をうつせ場もある。コースはダムより上流に位置。帰りはバス送迎、通年運航。木造船で、新造もしている。2011年調査。
		2	天竜川	天竜舟下り・筏下り	35分、2310円（2011年調査）、ライン下りより上流で実施、蛇行する急流が特徴で木造船。弁天港～時又港。その後筏流しも始まった。時期は5月～10月、第2第4土曜の予約制、6000円と保険料500円。
		3	諏訪湖	遊覧	2社あり、1周、8キロ25分、800円と1周、30分、800円。冬季結氷期は運休あり。2011・13年調査。

地方	県	番号	場所	形態	運営内容
中部地方	長野県	4	諏訪湖	ダックツアー	水陸両用車による2009年5月から運航が開始。上諏訪を基点に、ヨットハーバーから着水し、初島をめぐる。70分のうち水上は25分、3000円。2011年調査。
		5	野尻湖	遊覧	信濃町、4月下旬～11月下旬、1500円。15キロ、40分で湖中の島・琵琶島に立ち寄れる。宇賀神社がある。2012年調査。
		6	琅鶴湖・久米路峡	屋形船	長野市信州新町、犀川ダム湖。2006年水害で中断したのを再開。1500円。予約要。
愛知県		1	堀川	ゴンドラ遊覧	ゴンドラ保存と水辺風景の美化緑化を目的とする団体が主催。2007年から不定期運航し、堀川フラワーフェスティバルなどで特別運航。予約要で500円。2012年調査。
		2	堀川	水上バス	納屋橋から名古屋城前の朝日橋間を運航。クーポンを購入し、乗船。予約制で定員10名。2012年調査。
		3	堀川・揖斐川	七里の渡しクルーズ	実験運航段階。2010年は中止されたが、2015年は実施。熱田区宮の渡しから三重県揖斐川の桑名の七里の渡しまで。
		4	堀川・名古屋港	サムライクルーズ	予約制、チャーター船。御座船などもあり。
		5	矢作川	舟遊び	豊田市水園公園から竜宮橋、3月下旬から4月の桜の季節を中心に1000円とあるが、詳細不明。
		6	豊川	牛川の渡し	豊橋市牛川町洗島、棹で進める。豊橋市営、無料。対岸からは板を叩いて知らせる。
		7	木曽川	中野の渡し	一宮市中野一羽鳥市下中町をつなぐ県営渡船、無料、岐阜側の対岸からは旗をあげる。
岐阜県		1	長良川	鶺鴒	岐阜市・関市。岐阜市では公営の鶺鴒観覧船造船所があり、木造船建造を一般公開している。舟大工は伝統技術保持者に指定。5月～10月なかば、3000～3300円。2011年調査。
		2	長良川	小紅の渡し	県営、無料。木造船。岐阜市一日市場と鏡島双方の存続要望が強く、残っている。鏡島・乙津寺の弘法さんの日には多くの乗客がある。平日は一人で運航。土日には観光がてら渡る人が増え、年間8000人ほどの乗客がある。鏡島からは「お願いします！」大声で呼ぶか、手をふって知らせる。20数年前の木造船で、つい最近「涙のどころ」を補修した。新造するにはお金がかかる。しばらくこれでもたせられるとのこと。2011年調査。
		3	木曽川	鶺鴒・遊覧	犬山市6月～10月中旬、昼鶺鴒と夜鶺鴒あり。鶺鴒舟は木造船。ほかに遊覧船もある。
		4	木曽川	日本ライン	美濃太田一犬山橋13キロ、1時間、3400円。3月中旬から11月末。8つの早瀬を通り抜ける。乗船したときは同乗者は若者1組だけだった。テープを回して説明。2011年調査。2013年3月、休止。2015年現在再開されていない。
		5	木曽川水園	遊覧	各務原市川島、木船、棹、3月下旬～11月（11月は土日祝のみ）、木曽川水園をめぐる15分、大人300円。2013年から12月～3月も年間を通して日曜は実施することになった。パーキングと接続するため、多くの親子連れが訪れる。船頭は、元川石を運んだり、港湾で貯木場の役師として活躍した人たち。丸太や角材を下駄で乗りあやつる技で優勝し、海外にも遠征したという。夏には船上にヤマを飾り、夜くりだす花火大会のイベントもある。2013年調査。
		6	水門川	舟下り・たらい舟	大垣市。FRPの川舟のほか、人気があるのは、棹による木造たらい舟。関ヶ原合戦時の伝説にちなみ、花見の時期、市内を流れる水門川で実施。事前予約ですぐに満席だが当日でも乗れた。1.1キロ約30分、1艘1000円（大人2人乗船可能、船頭含めて180キロ以内）、2003年は9月下旬から10月、2004年以降は4月～10月を予定とするが、年によって異なる。2013年は10月から11月の土日祝16日間の運航で、1運航最大18艘がでるという人気。学生船頭も多い。帰りはクレーンでつりあげ、トラックにて乗り場へ配送。2013年調査。
		7	中津川	恵那峡めぐり	恵那市大井町奥戸のダムによってできた人造湖。ジェット船で4月～11月、20キロ、30分、1250円。2011年調査。
三重県		1	熊野川	舟下り	紀宝町、予約制体験料5000円（昼食つき）があるが、2015年現在、2・3時間のショートコースのみ。台風による景観変化の影響という。三反帆の木造船。帆船による川下りは全国でも唯一。川舟大工兼船頭が代表。
		2	宮川ダム湖	遊覧・登山道連絡船・渡し	ダム水没地域の都会に出た元住民ら約30人が遊覧船の運航を計画。大杉乗船場と、登山道入り口に近い第3乗船場とを結ぶ5.3キロで、片道約20分、2014年約10年ぶりに復活した。船は北海道などで使われていた40人乗りの中古船「望郷丸」。1日3往復の定期運航。登山道入口から第三乗船場まで1000円、予約制の遊覧は5人以上で50分で1周。1人1200円。このほか三瀬の渡しは2010年復活し、下三瀬と多岐原をつなぐ。こちらは事前連絡が必要とのこと。
		3	勢田川	周遊	宮川水系の勢田川で2005年3月から土日祝、海の駅神社港から河崎まで運航。海の駅神社港から中部国際空港とをつなぐ計画があったが中止。復元木造船みずぎで河崎・二軒茶屋・大湊をつなぐ。海の駅では復元船の建造記録の展示もあり、学童保育・郷土学習の見学にも力をいれる。2011年調査。
		4	志原川	舟下り	1991年に発足した南室郡御浜町の団体「あつまろらい」がシジミなどの復活を目的にゴミ拾いやウナギ釣りなどとあわせ、志原川で実施する舟下り。棹さし舟で毎年2回春秋に実施、2005年には2度目の舟造りも手掛けた。先着15名、参加費1000円。2015年は5月24日実施。

地方	県	番号	場所	形態	運営内容	
中部地方	三重県	5	七里の渡し 航路	遊覧	23キロ150分、七里の渡しと木曾川をゆったりクルージングするもので、原則は3月から11月の予約制、不定期航路。熱田宮の渡しと桑名の七里の渡し、揖斐川長良川周遊は2時間のコース。	
北陸地方	新潟県	1	信濃川	リバー クルーズ	川幅が広く、整備された水辺空間を楽しめる。2008年3月に乗船したときは乗客1人だったが、徐々に市民に浸透している。また雪の多い冬場、渋滞がおりやすい陸上交通をさけて人気コンサートの会場と市中を結んだ臨時便を運航するなど都市交通の渋滞回避の選択肢としても注目が集まる。	
		2	阿賀野川	ライン舟下 り	13キロ50分、2500円、白崎乗船所～石間（阿賀の里）、3月下旬～12月初旬ころ、帰りはバス送迎。女性船頭のなまりをまぜた話が印象深い。秋、サケもあがる。2010年秋より1周13キロの自然観察船が開始。2008年調査。	
		3	角神ダム湖	奥阿賀遊覧 船	東蒲原郡阿賀町、角神ダム湖から上流のコース40分、1000円。	
		4	奥只見湖	遊覧	魚沼市にある日本最大級の人造湖。40分、複数コースあり。5月下旬～11月はじめ。	
	富山県	1	松川	七橋遊覧	神通川分流、富山城跡のすぐ近くを流れる松川の川べりの桜が見どころ、桜の開花時期は随時運航、滝廉太郎ゆかりの地、4月～11月、2.4キロ、40分、1500円。2008年調査。	
		2	高岡城	古城公園堀 めぐり	4月から11月まで、30分、800円。2010年調査。	
		3	湊川	花見遊覧	氷見市。木造・櫓こぎテンマ船で地元の舟大工が建造。500円で桜・ツツジ等季節限定。2010～2015年調査。	
		4	内川	海～堀・遊 覧	射水市。新湊と内川の遊覧、50分1500円。11橋をめぐる。2005年4月より運航開始。2008年調査。	
		5	富岩運河	水上ライン	2009年から運航ソーラー船と電気ボートが富岩運河環水公園と中島開門間を通行、片道20分。2010年調査。	
		6	庄川峡	遊覧	砺波市。電力会社から遊覧船事業を買収し、2008年4月より開始。小牧ダムから大牧温泉片道1400円、短時間遊覧1000円あり。大牧温泉は船でしかいけない。2011年調査。	
		7	黒部湖	渡し	ダム湖によって水没した橋のかわりに渡す。平一針ノ木出合間、6月下旬から10月末まで1日4～5往復、無料。	
	石川県		8	黒部湖	遊覧	6月～11月上旬、30分1周930円、平均標高1448m、日本でもっとも高いところを航行する。2000年新造された船ガルベは定員80名、ダム建設計画のなかにもりこまれていた遊覧事業。2013年調査。
			9	放生津渦	渡し	新湊市、放生津渦を掘り広げた富山新港の越しの渦一堀岡間をつなぐ県営渡船で、無料。橋が完成したが、渡船はなくなっていない。2015年調査。
1			大聖寺川	遊覧	2006年は4月から8月までの毎週日曜運航予定だったが、2010年現在、通年運航で火曜定休。中学生以上1000円、櫓こぎ、30～40分でNPOが運営。「今年で5年目の桜のシーズンは休みなし」とのこと。川べりをいじりすぎず、他にない魅力がある。	
福井県		2	柴山渦	遊覧	屋形船、手漕ぎボート、サイクルボートもあり。1985年以来2010年に復活。屋形船は500円、4月～10月末。2012年調査。	
		3	手取湖	遊覧	ダムでは毎年7月末に湖面巡視の船で遊覧見学会が実施される。無料。	
近畿地方	京都府	1	九頭竜湖	遊覧	7月、巡視船を使った体験イベントとして実施。無料、ダム心臓部の見学もある。2013年調査。	
		2	浦見川、三 方五湖	遊覧	ジェットクルーズと遊覧船があり、美浜町・若狭町とで2社あり。通年営業、ジェットクルーズが40分、1210円で浦見川と久々子湖を含む4湖をめぐる。遊覧船周遊は水月湖と菅湖で45分、1050円。2010年調査。	
		1	保津峡	川下り	保津川遊船組合。FRP高瀬舟、棹、櫓、大櫓（舵）で亀岡から嵐山へ下る。トロッコ列車や鉄道と組み合わせ、客の送迎の必要なし、通年、16キロ100分、3900円。亀岡駅から乗船乗り場までの整備が進み、格段にアクセスしやすくなっている。2010年調査。	
		2	嵐山	渡し・遊覧・ 鶴飼	木造船にFRPコート、遊覧：大人1100円、渡し：400円（4月・5月、10・11月）、貸しボート：（1時間1400円・3人乗り）・うろ船（行商船）もあり、多種類があわさる。通年。このほか鶴飼：7月～9月15日、乗合1700円。2013年、12月下旬にはランタン祭りとおわせ、夜の遊覧船事業を実施。冬場の集客を見込む。2008～13年調査。	
		3	宇治川	鶴飼	2003年から女鶴匠登場、6月～9月、乗り合い1時間（18時半から）、1800円。2010年調査。	
		4	伏見	舟めぐり	長建寺の東の宇治川流派に発着所がある。町並みと三栖の開門も見どころ。三十石舟（木造船）と十石舟、各1000円、期間は4月～11月。2009・10年調査。	
		5	大野ダム	遊覧	由良川水系の上流にあるダム湖、南丹市美山町檜原、もみじ祭りなどで遊覧船を運航。	
		6	岡崎疎水	遊覧	3月下旬～5月上旬の花見桜回廊、1000円、南禅寺船だまり～夷川ダム往復3キロ25分、24人／1艘。世界水フォーラム開催時期は木造船だったが、その後鉄船にかわる。2008年調査。	

地方	県	番号	場所	形態	運営内容
近畿地方	京都府	7	大沢池	遊覧	大覚寺のある大沢池で、中秋の名月・観月祭に舟が繰り出され、茶席が設けられる。池は桂川の水がひかれている。ハスの開花時期も美しく、景観を維持するためのソウギョバスターの取組みなどがある。2009年調査。
	滋賀県	1	琵琶湖	遊覧	複数社が竹生島・多景島・沖島・奥琵琶湖、琵琶湖縦断・益梅・花見・横断航路など各種運航、浜大津・彦根・今津・長浜・大浦・マキノ・菅浦、などから発着あり。おもに2008～15年調査。
		2	瀬田川	船めぐり	瀬田川新港、石山寺港、南郷アクア琵琶港を寄港する11キロ75分、1300円。明治の外輪船・一番丸を模した観光船、カヌーの練習船とのすれちがいが楽しい。2008年調査。
		3	八幡堀	堀めぐり	35分、1000円、かわらミュージアム～赤レンガ工場跡往復、エンジン船。2011年調査。
		4	近江八幡・水郷	水郷めぐり	一部木造船もあり、60～80分、2100円、円山（エンジン船）、北之庄（手こぎ）、長命寺側の中之庄（エンジン船）で春から11月末ころまで実施。30年以上継続調査。
		5	長浜	ダックツアー	水陸両用車が長浜を基点に2014年3月から運航を開始した。長浜駅付近から長浜の町並みと汀を陸上で走り25分、長浜港から水上20分。2800円。
		6	彦根城	堀めぐり	50分、1200円。NPO法人が実施し、まる4年で黒字、ここ彦根を模範とし、高岡の堀めぐりが1年後にはじまった。2010年調査。
		7	安土城跡	お堀めぐり	田舟を使って櫓と棹による。安土城跡大手橋から百々橋までの600m、4月桜の時期から6月2日の信長命日にあわせ開催される「あづち信長まつり」までの期間。800円。2006年から始動。
8	家棟川	エコ遊覧	野洲市堤。櫓こぎ遊覧。2010年6月から運航。運営メンバーは里川づくりの一環で柳の植樹、ホテルの生息環境をよみがえらせる清掃活動等も実践。8人乗り10000円（2015年現在）で貸切船。4月～11月まで運航。		
奈良県	1	津風呂湖	遊覧	紀ノ川水系の上流、4人以上であれば遊覧船はでる。海のない奈良県に初めて遊覧船を浮かべた人造湖とうたわれる。2010年調査。	
大阪府	1	大川、道頓堀川、安治川ほか	船めぐり	複数の会社により価格もコースも多種多様。道頓堀と大阪城をつなぐアクアミニは1000円。大川周遊の水陸両用バスは3600円、2007年大阪で開始され、各地に広がる。さらに落語家といくなくにお探検クルーズ、サンタマリア、海と川をつなぐ大阪城・中ノ島・大阪港クルーズのコースなどあり。このほか博物館や防災施設見学とつなげた舟運やベイ&リバーサイドパーティなど多数企画実施。これらの活動と併行し河川の環境整備も進む。大川、木津川、安治川、道頓堀川、東横堀川、寝屋川。このほか2015年には期間限定で大阪城の堀の石垣がみられる黄金色の御座船も登場した。おもに2010～15年調査。	
	2	大川	おおさか船めぐり	2014年、富山県水見で新造された木造和船で、2015年春から運航ははじまった。運航はまだ不定期のようだが、乗合と貸切があり、乗合は14時半と15時半の2回、30分から40分の運航で1000円、現在割引特別価格とのこと。時期によって50分～60分の中之島一周コース1500円もある。櫓こぎと船外機で運航。撮影やイベントのほか、櫓こぎ体験学習などにも使えるという宣伝。本格的な木造船が加わった。	
	3	淀川	上り下り	枚方から八軒家までの上り・下りのコース、イベントとして運航が進む。約10年前、試乗したときには多かった川岸の青いテントもなくなった。川幅が広い分、けしきとしてはやや単調だが、今後枚方のくらわんか船や『芦刈』の舞台・八幡の渡しをほうふつとさせる事業が実現できれば面白い。2010年調査。	
	4	木津川、安治川ほか	渡し8箇所	大阪市が運営、道路の一部であるため無料。天保山・甚兵衛・千歳・落合上・落合下・船町・千本松・木津川の計8か所あり、市内にこれだけの渡しがあるのは今日他に見られない特色。大阪市からコンパクトで内容のある渡船マップがでている。渡しめぐりのミニ観光なども生まれている。おもに2002年～2014年調査。	
	5	堺	のんびりクルーズ	NPO法人が運営、1000円。2010年調査。	
兵庫県	1	尼崎運河・大阪湾	運河クルーズ	2004年4月漁協と連携して始まる。鉄塔や煙突、水門など工場地帯を眺める。蓬川、尼崎ロック、旧左門殿川をめぐる50分コース、1500円で2015年は5月30日実施、事前予約が必要で、今のところ定期運航ではない。	
	2	姫路城	堀めぐり	2012年3月から堀めぐりの試験運航が開始、2013年3月から新造和船による運航開始。30分コース、1000円。菓子博の会期中に実施し、好評を博した遊覧事業を、今回は当地方で使われた木造の高瀬舟を復元し、実施にこぎつけた。若手舟大工の技術養成をはかり、船頭の指導には、櫓こぎ技術の熟練者があっている。2008・15年調査。	
	3	赤穂城二の丸庭園	池めぐり	2006年から年2、3回開催されている木造屋形舟による遊覧。2013年も4月27・28日に実施、大人200円。堀では、普段はカッターの練習がなされている。2013年調査。	
	4	円山川	玄武洞渡し	豊岡市、1999年一旦廃止、2008年より規模縮小し、運航。有料。2010年調査。	
和歌山県	1	有田川	鶺鴒	有田川流域では、6月～8月末、舟を使わない徒鶺鴒が行われ、それを屋形船から鑑賞する。徒鶺鴒は山梨の笛吹川とともに、数少ない継承事例。木曾川の鶺鴒匠から室町時代に伝えられたのが始まりとされ、県の無形文化財指定。現在休業中。	
	2	北山川	筏下り	1979年8月から実施、筏下りを定期運航するのはこと天竜川。5月から9月：6000円、8月：7000円。これが筏下りの相場である。2010年調査。	

地方	県	番号	場所	形態	運営内容
近畿地方	和歌山県	3	日置川	安居の渡し	2005年10月、50年ぶりの復活。すさみ町のかつら木材商店から寄贈された木造の川舟での運航、安居の渡し保存会による。500円、3日前までに事前連絡。2014年2月現地調査時、堤防にはイノシシなどの獣よけのフェンスが堤防にずっとはりめぐらされていた。堤防は砂利が整備され、山と接続する渡し場の姿が再現されている。板ミヨシの平田舟とは別にミヨシの立った舟もある。槽こぎだが、船外機をつけられるようになっている。トイレとスタンプラリーのパンフレットのほか参詣の旅人に配慮して杖がある。2014年調査。
		4	熊野川	舟下り	新宮市熊野川町、木造船で通年運航、16キロ、1時間半、3900円。ほかに早朝や夕涼み、船祭りにあわせた便なども企画実施。2010年調査。
		5	瀞峡	船めぐり	8便、通年、24.5キロ。志古から瀞峡、志古のコース3340円、ウォータージェット、このほかミニコース、小川口からの乗船による便もあり。北山川の奥瀞峡には別会社の船めぐりあり。和船を使ったものもあるようだ。2010年調査。
中国地方	岡山県	1	倉敷川	川舟流し	木造船・棹で進む、美観地区の中心をゆく点景。300円と安く、人気が高く土日はすぐに満員御礼。2006年にはじまり調査時はまだ1艘だけであった。2007年調査。
		2	高梁川	水江の渡し	河川改修で倉敷市の水江地区が分断されたことから水江と船穂間を、1927年から約90年運航しつづけてきた木造船の渡し。新橋が開通し、2016年3月で市道認定が解除、2016年3月で廃止がきまった。観光渡しとして将来の復活を望む声もある。
	広島県	1	太田川	船めぐり	リパークルーズは30分、1000円、日に10便。平和公園から宮島参拝が2002年7月末より運航開始、川と海をつなぐコースは世界遺産航路と名づけられ、2000円、日に12便と定着している。2010～15年調査。
		2	江の川	鶴飼	三次市十日市親水公園。6月～8月、2000円、夜昼あり。鶴飼舟、観覧舟ともに木造船で、江の川のスタイルだ。2011年調査。
		3	帝釈峡	ダム湖遊覧	高梁川水系・帝釈川のダム湖である神龍湖、1周7.3キロ、40分、1000円、4月～12月上旬。
	鳥取県	1	蒲生川～浦富海岸	遊覧	蒲生川河口から海食地形の島をめぐる遊覧、3月～11月、1200円、遊覧船では通れない狭い航路を通る小型船は4月～10月で2100円。2013年調査。
		2	加茂川・中海	遊覧	米子市中町、白壁土蔵前から中海へ出て戻るコースで2003年より運航、50分1200円、1日2便、1艘10名定員で2艘所有、3月下旬～11月初旬、冬は予約制。他に米子港専用乗り場から発着する予約制の中海屋形船遊覧もある。2011年調査。
	島根県	1	宍道湖	遊覧	3月～11月、15キロ、60分、1300円。大山、松江城を湖上から臨める。東西に長い宍道湖ならではの夕日を眺めるコースあり。2009年調査。
		2	大橋川	矢田の渡し	松江市矢田の渡し。朝夕の通勤通学以外に1時間の大橋川観光周遊があるようだが、不定期。2011・13年調査。
		3	堀川	舟めぐり	3か所の発着所を基点に市中と松江城周辺を、米子川から堀川、京橋川とめぐる。通年、50分、1200円。100人近いシルバー船頭を雇用、環境美化も進む。一本化され、秩序だった運営で1998年の開始当初から人気が高まり、松江の観光として定着。2009年調査。
		4	平田船川	平田舟遊覧	木綿の集散でにぎわった白壁の町並みと運河がある宍道湖北西部の出雲市平田。往時のけしきを楽しめるようにと木造の平田舟が新造され、2006年40年ぶりに復活した。土日の運航で交流館で受け、乗船料300円。
		5	神西湖	屋形船	出雲市西沖町、通年、2時間、5000円（食事つき）。2006年7月中旬から15年ぶりに復活。シジミの生産地。
		6	江の川	屋形船	4名以上の予約運航、美郷町長藤・潮温泉。
	山口県	1	錦川	鶴飼	錦帯橋周辺で実施され、6月から9月10日、2015年現在2000円で以前より下がった。江戸時代にはじまり、幕末以降途絶えていた鶴飼を1952年から観光鶴飼として再興。2008年より昼鶴飼も土日祝の昼2時間実施されていたが、2015年は実施されていない。木造の鶴飼船は岐阜からも入手している。2007年調査時よりテコ入れが進む。
		2	錦川	さくら・もみじ舟	錦帯橋周辺での春・秋に実施される遊覧船。20分、500円（2015年現在）。これにより長期の遊覧が楽しめる。
		4	日本海・橋本川	萩八景遊覧	3月～11月実施、1200円、桜のシーズンは川添河川公園までの60分コース、通常40分。2004年7月より運航開始。2011年調査。
5		萩・松本川	鶴江の渡し	自転車に乗れなくなった老人などの生活用だが、萩の伝建地区とつなぎ観光案内にも登場。風が強いと運休の旗がたつ。木造船1隻で槽こぎ、無料。2010年調査。	
6		阿武川	ダム湖遊覧	2010年秋から運航、萩市、4月～11月50分、1200円。ダム湖の自然、水位低下の時期は集落遺構がみられる。このほか60分コースあり。	
四国地方		徳島県	1	新町川	遊覧
	2		吉野川	川下り	三好郡東みよし町美濃田の湖で2001年3月から運航を開始した。3月～10月、30分、1000円。船は吉野川の伝統的なカンドリ舟を模したFRP船。高速道路のPA吉野川ハイウェイオアシスから直接川にいける。ほか、ラフティングもあり。2011年調査。
	3		吉野川	長原の渡し	松茂町、吉野川水系今切川。無料。『吉野川の渡し』というガイドブックもあり、渡しが見直されている。2008・10年調査。

地方	県	番号	場所	形態	運営内容
四国地方	徳島県	4	吉野川	大歩危峡遊覧	三好市, 往復30分, 1050円。日本三大秘境とうたわれるが, あとの二つがどこかは知らない。明治42年(1909), 後藤新平が土佐へむかう途中, 紅葉に染まる大歩危の美しさにうたれ, 天下第一と讃えたという。2010年調査。
		5	母川	ほたる祭り	海陽町高園, 6月上旬の約1週間ホタルの乱舞する時期に3艘の高瀬舟を運航, 夜7時半ころから9時すぎまで棹こぎ, 大人500円, 小中学200円(2013年調査)。初日には地元保育所などの有志による屋台がでる。即席の水車が設営され, ササブネ作り, 竹笛作りのコーナーもある。季節限定で子供たちにも人気がある。
	香川県	1	栗林公園	遊覧	池のなかに白木の木造船を浮かべて棹で遊覧。絵図にある景色を復元したもの。木造船は香川の舟大工による。時間指定で600円, 2012年7月から開始, 30分間隔で大人6名定員。2013年調査。
		2	高松城跡	遊覧	史跡高松城跡玉藻公園の玉藻丸。スギの木造和船で2014年開始。3月~11月で, 3月から9月は15便, その他の期間は13便。30分, 大人500円。海水がゆききする堀なのでタイが育ち, 寄ってくる。2013・2015年調査。
	愛媛県	1	肱川	鶴飼・渡し	大洲市の鶴飼は, 1957年より観光用として開始, 6月~9月。期間限定で観光渡しもある。2008年調査。
	高知県	1	四万十川	遊覧	四万十市。遊覧は舟大工加用氏が木造船で始めたのが最初。その後FRP船の屋形船が主流となる。その他帆かけセンバも登場, 定期船・随時運航船をふくめ現在12箇所運航。2000円, センバは2500円。2011年調査。
		2	堀川	遊覧	2008年から運航, 堀川から桂浜までをめぐる川・海のコース80分2000円。堀川から鏡川のナイト遊覧もある。
3		仁淀川	屋形船遊覧	高知県高岡郡日高村本村, 大人2000円, 11名乗り, 1日5便の定期運航で2012年から開始。	
九州・沖縄地方	福岡県	1	柳川	川下り	複数の会社が経営, それぞれ少しずつ趣向をかえ客の獲得に懸命だ。1500円。防火とトンコ舟による舟下りには堀の水量維持が切実。2010年調査。
		2	筑後川	鶴飼	朝倉市原鶴温泉で5月20日の川開きから10月中旬まで実施。温泉街としてはさびれた印象だが, 鶴飼観光には力をいれ, 河川整備も進む。鶴飼舟は木造船, 屋形船はFRP船。生活手段として受け継がれたもので, 赤星家・梶原家・白井家が代々鶴匠を受け継ぐ。2014年調査。
		3	筑後川	鶴飼	うきは市古川, 筑後川温泉で各旅館が実施。2014年調査。
		4	筑後川	遊覧	筑後川の左岸の防災施設ぐるめウス下河川敷乗船場から出港し, 1時間の1日限定のクルーズ。2013年は11月に実施, 大人1000円で45名定員。筑後川の歴史解説を聞きながらの河川クルーズで毎年恒例となっている。このほか子供たちの河川学習に「おかむら丸」を使ったクルーズ体験などが不定期に実施されている。2014年調査。
		5	那珂川	遊覧	博多でも河川遊覧が進む。20分500円, 同じ金額で那珂川から博多湾にぬけるコースもある。2012年調査。
		6	遠賀川	川ひらた乗船会	飯塚市。かつて石炭等の運搬に使われた木造船を, 文化財保存された数少ない実船をモデルに復元し, 郷土文化の象徴として復活させた取組み。2010年9月, 伊藤伝右衛門邸近くの川で進水式と試乗会を実施, 2014年9月下旬から10月の日曜日限定で, はじめての乗船会が無料開催。今後の運航予定は2015年現在未定という。
	佐賀県	1	嘉瀬川	遣唐使船観光川下り	佐賀市久保田町徳万。2004年より運航。4月~11月, 1隻8名, 最低催行人数8名, 予約制。2015年現在1000円, 鑑真和上陸の言い伝えにちなみ, 遣唐使船を模した船。森林公園西の船着場から池森橋往復1時間8キロのコース。河川敷では秋バルーンフェスタが開催される。
	長崎県	1	ハウステンボス町	カナルクルーズ	佐世保市ハウステンボス町のテーマパークの中だが, 全長6キロの運河をゆく遊覧船で600円, ブルーケレンとユトレヒトに乗り場がある。このほか, 水陸両用車による港と町内の運航もあり, こちらは大人3000円。
	大分県	1	松原ダム湖	遊覧	日田市, 1500円。事前予約, 電話をすると5名が最低の運航条件とのことで断念する。1艘で運航, トンネルの出入り口の脇に発着所がある。熊本との県境であり, 杖立温泉に隣接する。杖立温泉は, 川沿いのひなびた情緒あふれる湯治場である。湯煙, もや, 霧雨, 筑後川の水の流れが折り重なる水けしきが見どころなのだ。2014年調査。
		2	三隅川	鶴飼	日田市, 筑後川水系の支流, 5月下旬から10月で実施。鶴飼舟は木造船, 屋形船は2艘だでのFRP船が基本, 船尾に小水用のトイレがある。天領だった日田市は, 木材の集積でも栄えた。川漆があり, 近くに豆田の伝統的町並みが残る。2014年調査。
熊本県	1	球磨川	くま川下り	木造船でFRP巻き, 4月~10月急流コース90分・3675円, 球磨村渡出發, 通年の清流コース, 90分・2835円, 人吉市下新町。急流コースが人気, 清流コースは人が集まらないとでない。2010年調査。	
	2	球磨川	渡し	梅花の渡し季節限定, 800円。八代市瀬戸石駅付近-球磨村に学生ら住民を木造の渡し舟があったが, 2012年廃止。	
	3	江津湖	屋形船	熊本市江津。明治10年創業, ベダルボート, 手こぎボート, 屋形船(予約制)あり, 木造船の残骸もあった。都市近郊に位置し, 市民の憩いの場となっており, 木造船の遊覧観光には適した場所である。2015年調査。	

地方	県	番号	場所	形態	運営内容
九州・ 沖縄地方	熊本県	4	坪井川	舟めぐり	熊本城周辺の期間限定の舟めぐり。例年大型連休にあわせ4月末から5月初旬に実施。熊本城長堀前から周遊で5人定員、無料。2011年調査。
	宮崎県	1	堀川運河	チョロ船体験	沿岸マングローなどの漁に使われた木造船を復活させようと、日南市油津で2002年有志による「チョロ船を復元する会」が発足し、はじめた取組み。油津の港祭り、運河まつりのほか、小中学校の体験学習に利用する。2009年調査時、3艘目を油津チョロ船保存会が新造。
	鹿児島県	1	池田湖	遊覧	九州最大の湖、複数のコースあり、小型モーター船による貸切船。2010年調査。
		2	川内川	二渡ホテル舟	5月半ばから6月初め、さつま町内2か所で実施されている年中行事。川内川は中上流ほど木造船が残り、ここでは3連に木造船をつなぎ運航する。夜7時半と8時半の2便で40～50分かけて対岸の竹藪に乱舞するホテルを鑑賞する。2013年で10年を迎えた。2013年調査。
		3	川内川	奥薩摩ホテル舟	鶴田第2ダムの下流側に多くのホテルが群生していることからホテルによる観光交流としてホテル舟が運航される。5月から6月はじめのホテルの季節限定の予約制、薩摩町神子、約2キロの区間を上流からあびーる館まで40分間かけて下る。大人1500円、2013年で12年を迎えた。2013年調査。
		4	屋久島	流れ船	6月～9月、安房川と宮之浦川で行われる川遊び。予約要。2009年調査。
		5	奄美大島	カヌー川下り	住用長役勝、役勝川と住用川が合流する一帯のマングローブの川をゆくガイドつき遊覧。60分、2000円。
	沖縄県	1	西表島仲間川	遊覧	60分、1500円。マングローブの林を遊覧。2012年調査。
		2	西表島浦内川	遊覧	上原港から無料の送迎バスあり、河口から軍艦岩まで遊覧船が出ている。片道30分、往復で1800円。カンピレーの滝まで片道40分のトレッキングで、見事な景観が広がる。昔は浦内川に橋がなく、刳舟のサバニの渡しが通っていた。廃村となった東部網取では1959年にはクリブネが何艘もあったと島民は語る。2012年調査。

現地調査は出口品子、出口正登による。表中の料金は現地調査時の金額である。運航時期等は、自治体ならびに観光協会、運営母体の観光案内等も参考にした。遊覧事業を主とし、自力でこぐボートやラフティング等は補記にとどめた。

生き残りをかける鵜飼観光には問われている。

## ② 渡し

渡しとは川、湖水の対岸を結ぶ舟運をさす。現在稼働しているところは、全国で32箇所ほどある。通学や通勤等、地元生活者の足として、道路のかわりに運営されてきた。その存在が珍しくなった今日、舟で川を渡ることを楽しみに訪れる観光客も増えている。また観光渡しとして復活した例もある。大阪市では現・旧の渡し場マップを作成し、無料で配布するなど、渡しの名所化をはかり、広報が進む。また木船だった長良川小紅の渡しは2015年、新造のFRP船になった。



写真2 鶴江の渡し (山口県)



写真3 天保山渡船 (大阪府)

## ③ 舟下り

舟下り(川下り)の遊覧事業地は、かつて筏流しや高瀬舟等の物資運搬で栄えた場所が多い。近代以降上流におけるダム建設、鉄道やトラック等への物資輸送の代替で、その役目を終えていくなか、船頭衆たちが培ってきた川を読み、川を下る技術を観光に振り向け、遊覧事業として成立させたものである。これらの川では、古くからの船頭組合や企業体がすでにできており、船頭衆が冬場や舟下りの合間に木造船を製作するところもある。およそ20箇所の舟下りのうち、木造船で実施するところは約4割、8箇所程にのぼる。それぞれ自前で舟を造れる体制を確立していることが木造船を活かす割合の高さにつながっている。

## ④ 船めぐり

川や湖の発着所を基点に水面をめぐってもどるのが船めぐりである。湖などでは数箇所の発着所をもち、片道でも乗れるところがあるが、基本は出発点にめぐってもどる方式である。河川観光舟運のなかでもっとも数が多く、実施される場所は、ダム湖・池・城の堀・運河など様々な人工的な水面にも広がっている。船は、高度機能を備えた大型船から海賊船や白鳥のデザインをもつ船、ボート、木船までいろいろある。



写真4 諏訪湖の遊覧（長野県）

また近年は、広島県の太田川（原爆ドーム前）から厳島まで二つの世界遺産を結ぶコースや富山県の新湊一内川遊覧のように川と海をつないだ移動を特色とするコースもみられるようになってきた。



写真5 広島厳島の厳島神社と川舟遊覧

以上のような河川観光舟運を俯瞰して、まず最初に指摘できるのは、遊覧事業が北海道から沖縄まですべての都道府県で現在実施されているという事実である。本論では、地域別の特徴を詳しく述べることはできないが、たとえば、北海道では湖での遊覧を特徴とする一方、島嶼県である沖縄県にもマングローブの生える

河川での遊覧が西表島に2箇所稼働する。いずれもそこへいかなければ見られない地形や自然を味わえる遊覧船となっている。

また、河川観光舟運には、近代以降の開発によって自然の見せ場が新しく創出され、誕生したものが少なくない。ダム湖遊覧は、その代表的なものである。

## ダム湖遊覧

ダム湖遊覧の先駆けは、渓谷美で知られる岐阜県の恵那峡である。恵那峡とはいかにも自然そのままを表現した地名に聞こえるが、ここは1924年（大正13）木曾川の大井ダムの完成で誕生した人造湖である。高度経済成長期にも富山県の黒部ダム、近年でも2000年完成の神奈川県宮ヶ瀬ダムのように、ダム建設段階から観光へ資する遊覧事業が計画され、完成後ダム観光地となった場所がある。また定期的な運航は実施していないが、九頭龍湖や手取湖などのようにダムの心臓部の見学とあわせ、巡視船を使ったダム湖遊覧等を恒例行事として実施するところも増えている。これらを含めると、ダム湖遊覧は20箇所以上にのぼる。

さらに近年ダム湖では水陸両用車の運用や社会実験が進む。定期運航をはたし、かつ恒常的な集客が見込めるダム湖はごく限られている。そのため、水陸両用車は、ダム湖遊覧の活性化に新たな有効手段となりうる。インターネットでリアルタイムに現場の正確な情報を共有できる現代には、開催時期の告知を徹底すれば、人やモノをそこに常駐させずに運営する方式は合理的である。つまり水陸両用車は今日的人力車観光と同様、全国の観光地をネットワーク化することで展開していく観光事業といえる。この場合その土地ならではの特色は、舟そのものではなく、水陸両方にまたがる景色の見え方・見せ方に特化されることになる。

岩手県の滝ダムでは、「海が見えるダム湖」をうたう。また奈良県の津風呂湖は「海のない奈良県に初めて遊覧船を浮かべた人造湖」とうたう。ダム湖遊覧は、単独では観光として成立しにくい、山河海結びつきをとらえ、川を軸とした広域観光を構想する場合、重要な構成要素となりうるのである。

## 木造船がいい

ここ10年、東京や大阪などの都市部では川の遊覧事業が一段と充実した。河川状況や町並みにあわせ景観整備が進められ、観光客のニーズに応じられるよう、形状や装備、コースを含め、じつに多様な遊覧事業が展開されている。興味深いのは、その一角に木造の和船観光も誕生・成立していることだ。また新しいところでは、姫路城や栗林公園など、城の堀割や川の水を



写真6 水見の花見遊覧 (富山県)



写真7 琵琶湖近江八幡・水郷の舟めぐり

導入した池の観光にも木造和船が取り入れられ、定着している。

表1のとおり、河川観光舟運に木造和船を用いた地域は、全国で約50箇所へのぼる。そのうち40箇所程度が季節限定にせよ定期的な運航を実施している。また木造船とはいえ、その多くが船体の表面にFRP（強化プラスチック）をまき、水漏れと強度を高めたものだ。とくに傷みの激しい川下りでは船体を長持ちさせる工夫が必要であり、舟大工不足を補う点でもこの方法が定着している。そのようにしてでも木造船を活かすのは、土地の伝統文化を求める傾向が観光客の側にもあるからだ。

つまり、河川観光舟運全体の約2割のエリアに木造船の利用が見出せるのである。この数字は、漁業等の生業ではほとんど使われなくなった木造船の技術継承がなお観光の領域では可能であり、現実味をもつことを示している。各地で国際観光地としての整備を進めるさい、この数字は十分意識される必要がある。と同時にその質も問われなければならない。これらの舟に

は確かに木の舟ではあるが、在来の技術には頓着しない「和船風」、「和船もどき」のものもある。それが日本の木造船文化の伝統と理解され、世界に伝えられていく懸念もある。また、舟大工の減少が著しい今日、確かな技術であっても木造船は遠方へ発注しなければ入手できない事情がある。その場合、ローカルな技術文化を求めることは困難だ。培われたローカル技術をどう考えるか、どう保証していくか、そこに隠れた大きな課題がある。

#### PAで遊覧

遊覧事業の展開にはそこへいくまでの交通アクセスが重要である。高速道路のパーキングエリアで遊覧船に乗れるという発想は、今までどこにもなかったものだ。それを実現したのが木曾川と吉野川である。岐阜県各務原市川島の木曾川水園は、高速道路のパーキングエリアと接続しており、親子連れの集客に成功している。かつて川石を運んだり、野木場の筏師に従事した人たちが船頭となり、ここでも木造船が活躍する。

四国の中央構造線に沿って、渓谷をつくる吉野川では、川筋に沿って高速道路が通る。徳島県東みよし町美濃田の淵のパーキングエリアは目の前が吉野川である。吉野川伝統のカンドリ舟を模したFRP製の遊覧船が2001年から運航している。いずれも30分程度の時間と安価な値段で、車の休憩がてら気軽に水辺の景色が楽しめる。

河川観光舟運は、いまやパーキングエリアの機能を充実させるのにも一役買っている。

#### 疏水で花見遊覧

京都では西の嵐山にたいし、東の岡崎疏水で、2003年開催の世界水フォーラムを契機に桜のシーズンに舟を浮かべる季節限定の遊覧事業が軌道にのった。明治に敷設された琵琶湖から京都につながる琵琶湖疏水は、当初は発電や水の供給のみならず舟の道を兼ねていた。薪や柴などを積んだ疎水舟が浜大津から疏水を通り、蹴上に設置されたインクライン（傾斜鉄道）に乗って、勾配のある二つの舟溜まりを移動する。そこから町中を走る疎水を通って舟でモノが運ばれた。疎水べりには湖西出身者が多く商いし、舟の移動にともなって人も大いに流通したのである〔出口・出口2010〕。つまり京都市内の疏水を利用した遊覧船事業は、琵琶湖疏水が有した本来の舟運機能を部分的にせよ復活させた取組みなのである。

以上、述べてきたように、ダム湖の遊覧は、新たに誕生した人造湖から巨大構造物としてのダムと周囲の自然を見いだす観光である。たいする川下りや渡し、

その他の船めぐりは、その土地の歴史や文化の文脈が重視されて成立する。われわれは掘り起こされた歴史の文脈を通して川を体験する。その行為が川との接点を失っていた現代人にとっては今、はじめて味わう新しい世界の発見となっているのである。

### 3 「さあ、船に乗ろう」

2012年に完成したスカイツリーがそびえたつ東京・浅草周辺は、河川観光舟運の一大人気スポットである。隅田川とベイエリアをつないだ大型の観光船が毎日運航し、変化に富んだ東京の街並みを広々とした視界で堪能することができる。また隅田川に通じる横十間川などでは和船友の会が中心となり、小型の木造船を使った櫓こぎの和船観光も多数運航され、花見を川から楽しむこともできる。



写真8 東京スカイツリーと隅田川

東京は浅草界隈が拠点化し、次々新たなコースが生まれ出されているのになら、大阪は、淀川・大川・堂島川・土佐堀川・寝屋川・東横堀川・道頓堀川・安治川等大小河川を連絡して縦横に移動できることが醍醐味だ。そして特筆すべきは、8箇所もの市営渡船が現役で活躍していることがあげられる。他の都市にはない魅力であり、渡船の数は全国でもっとも大阪が多い。江戸時代には水の都であった大阪も近代にはいと、川は道路へと変身した。遊覧船で残された川をゆくと、その上空を高速道路が走り、思いのほか夏の暑い日差しを緩和してくれるのに気づく。埋め立てられなかった川もまた道路であることは、遊覧船に乗ってはじめて実感する都市の顔なのである。都市空間における遊覧船の面白さはこうした発見である。道頓堀川などでは遊歩道が設置され、大川では京阪天満橋駅と接続した八軒家の川湊が整備され、水上結婚式が実施される

など、川面に人々の視点を誘導する水際の環境整備は一段と進んでいる。また2015年からは富山県の氷見の造船所で建造された櫓こぎ木造船による観光舟運が大阪でも1艘就業した。水都大阪の情緒を味わう選択肢として付け加わった風景である。

他方、名古屋で注目されるのは、イタリアのゴンドラを使った堀川での観光舟運である。

2005年愛知県で開催された国際博覧会「愛・地球博」で使われていたゴンドラを再利用しつつ堀川の美化を進めるため、2007年から名古屋城に通じる堀川で不定期運航するようになった。近隣の女子学生らがゴンドリエとして活躍し、東京の和船友の会のメンバーがその指導に加わる。聞けば、かつて浦安の遊園施設で日本初のゴンドリエをしていたが、退職後東京の和船友の会に入り、櫓や棹など和船のこぎ方を覚えつつ、各地の船頭ならびに操船の指導をしているという。つまり東京からやってきて名古屋でゴンドラの櫓をこいでいた船頭が、群馬の谷田川では揚げ舟を棹でおし、また東京の横十間川で伝馬船の櫓をこいでいるといった状況が現実のものとなっている。NPOで運営される小規模な河川舟運の場合、技術の習熟や育成継承にこうした地域間連携や人的交流は欠かせない。

つまり岐阜や松江のように行政主導で地元雇用を確実にし、人材確保をはたす方向と会社組織で実施する方向、NPOにより人材の貸し借りを広域ネットワークで円滑にし、少ない予算、少ない人材でまわしていく方向が現代の河川観光舟運には見いだせる。

栃木県巴波川の遊覧は、FRP船に木で化粧し、一見木造風にしたてている。旅客数22名乗りの大型にすることでバス1台分の乗客がきても2艘の舟で対応できるようにし、大変な人出だという。ここは物資輸送の拠点となった蔵の町で、国の重要伝統的建造物群保



写真9 巴波川遊覧（栃木県）

存地区の一角にあり、川を中心とした町並み整備が進む。舟は2005年より運航を開始し、当初はボランティアで運営していたが、町並み観光には欠かせず、NPO法人にして多少なりともお金が入るようにしたという。その結果船頭衆の養成にも力が入り、30名ほどが従事している。つまり船体を大きくし、隻数を増やして団体の乗船客がきても対応できる方向に整備することで着実に遊覧を町並みに浸透させる方向がある。

他方、「商売気がないのがいい」という魅力のひきだし方もある。群馬県谷田川の揚げ舟はその例だ。近くにはフナ釣りの堀があり、客も多い。アジサイなどを植えれば花見舟にもなるが、店もなくやろうという人もいないという。そのことがかえってのんびりとした魅力を放っている。

京都嵐山は、古くからくるまざき車折神社の三船祭が舟を浮かべて実施されるなど、舟遊びの文化が根強い土地だ。また近代まで京都北山のスギ・ヒノキを筏に組み嵐山まで輸送し、燃料となるセンバ（薪・柴）も上荷とするなど、桂川（大堰川）を利用した交通が栄えた。セバトの難所で、かつ風光明媚な保津峡を、人びとを楽しませる観光高瀬舟にかえ、定期運航するようになったのが保津川下りである。近代には上流のダム開発が進み、山から切り出した材木を、川の流れを活かして運ぶ筏流しの生業は廃業せざるをえなかったが、筏流しはダムより下流でその後も続けられていた[出口・出口2007]。その経験を活かし筏流しがイベントとして再現されたこともある。舟下りは、川の水位があがると運航ができない。以前は通年の就航が難しかったが、1997年完成した多目的機能をもつ日吉ダムでは遊覧事業等に配慮した水量調整もなされ、年間を通じた営業がより円滑になった。生業の現場ではダムと舟下りは、舟下りに歩のない矛盾の関係にありながら、遊覧の現場では、相寄る関係が見出せるのである。

#### 4 橋と渡し舟

1974年から1976年にわたり全国の渡し舟を実地調査した北井・和田・大崎はその著書『渡し舟』のあとがきで、1975年当時道路法上の渡船は273箇所、部落や個人がおこなう道扱いをうけないものを加えるとおよそ300前後と推測している。この数字には島と島を結ぶ海の渡船が含まれているので、川や湖沼の渡し舟を求めて全国をあるき、足で確認した結果、その数はおよそ170箇所だったと述べる[北井ほか1976:273]。40年前の当時も「最近まであったがなくなった」、橋

がかかるのもうじき廃止」という話を行く先々で聞きながらの調査であったようだが、今日から省みれば「それでもまだたくさんあった」ことが印象づけられる。しかも舟は木造船が圧倒的に多かった。推進具は、船外機をつけたもの以外、ロープ（綱渡し）や櫓や棹といった人力によるものが多かった。現在32箇所ほどある渡しには1970年代には消えていたが、その後再生されたり、観光用に新たに再現されたものが数箇所存在する。

生活の足であった渡船は、近代に入っても各地で多数増設され、橋がかかるとそのほとんどが廃止された。したがって、江戸時代から続く渡し場は大阪でも1箇所ほどしかなくほとんどが近代以降のものである。

たとえば、石狩川の北海道浦臼町晩生内地区と美唄市中村地区を結んだ美浦渡船は、1916年より運航され、最近まで1日3往復、要予約だが無料で運航されていた道内最後の渡船である。利用客の減少により2005年廃止されたのち、6月から9月の土日祝に限定し観光用としての復活をみた。しかし美浦大橋の完成に伴い、2011年9月、96年の歴史に幕を下ろしている[北海道浦臼町役場2011]。

利根川の香取市富田神殿と小見川町をつなぐ渡船は、料金80円、自転車は100円だった。通学船として続いてきたが、2013年3月で終了し、2013年度からは通学用ワゴン車にかわった。その結果、利根川にかかる渡船は3箇所となった。

富山県小矢部川の河口近くにかかる如意の渡しは、室町時代の成立とみられる軍記物語『義経記』に登場する舞台でもある。奥州へ逃げのびる義経の姿を船頭に見破られたが、機転をきかした弁慶が義経を扇で打って無事渡し、目的をはたしたと伝える場所である。高岡の伏木と右岸の六渡寺との間を運航していたこの渡しは、乗客の減少から2009年8月廃止された。これにより、北陸地方で現役の渡しは射水市の越の潟と堀岡をつなぐ連絡船と黒部湖の渡し、庄川の小牧ダムの渡しだけとなった。

なかでも越の潟の渡しは、潟湖である放生津潟を掘りこんでつくられた富山新港を通航する無料の県営渡船で規模が大きい。もとは高岡と富山を結ぶ富山地方鉄道・射水線が走っており、橋もかかっていた。当時は港としての産業的機能をもっておらず、低い橋で、砂州がのびているため、長さも短かったという。港がつくられ、分断されることになった交通を接続すべく、1960年代、鉄道の代替として渡しが運航された。その間の経緯は、地元の人に聞くといろいろである。「災

害で橋がこわれ、そのあと船は運航されるようになった」とも記憶される。料金も現在は無料だが、有料の時期もあり紆余曲折があった。港に出入りする大型貨物船の航行を妨げないよう高さ約50mの新湊大橋が2010年完成し、連絡船は廃止となる予定だった。2008年に訪れたときには「連絡船は5年後には廃止」との話だったが、運航は今なお続いている。便数は減ったとはいえ、朝夕は1時間に4本、昼間でも30分に1本と多く、通勤・通学客に加え、新橋完成とともに徐々に観光客の乗船者も増えている。新港の建設、旧鉄道・旧橋に代替した船とバスの発着、新たに建設された歩行者用エレベーター付きの新大橋、渦より西側には残った越の渦を基点とする路面電車の発着と、船・バス・鉄道・橋が集結するけしきには、これまでの複雑な経緯があらわれている。新湊大橋完成までは舞鶴の平湾のクレーンブリッジが日本海沿岸で一番規模の大きい斜張橋だったが、それをぬいた。橋の下をくぐって湾の岬々を結んでいた舞鶴の連絡船は2004年9月廃止されたが[出口・出口2005]、ここは地元民の意志を反映してなお存続している。渡しと橋が共存するけしきは、大阪の千本松、広島德音戸の瀬戸などがあげられるが、日本海沿岸にはみられなかったけしきである。今後名所として育つ可能性のある場所といえる。

公営の定期船として渡しが多いのは大阪である。現在8つある渡し場は、いずれも道路の位置づけで無料であり、市民の足である。ループ状の高い橋がかかったあと廃止が見込まれたが、市民の反対があり、生き残ったところもある。渡し場の著しく減少した今日、水都大阪を満喫できる機会として、舟旅気分で利用する人も多い。渡しは水都大阪を象徴する重要な顔となっている。それでも渡しはあくまで生活の足である。

「遊覧やガイドはしちゃいけないことになっているんだ。」長良川の小紅の渡しの船頭が語るとおり、渡しには節度ある利用が求められる。寅さん映画のロケ地となり、東京柴又見物の延長で訪れる観光客の多い矢切の渡しでもガイドはない。黙々と櫓こぎで江戸川の対岸である千葉県側に渡してくれ、キャベツ畑が続く田園を一目見て乗客のほとんどは次の舟で再び東京柴又にもどっていく。矢切の渡しは、観光渡しとしてもっとも定着をみている名所であり、渡し本来の風情をよくとどめた場所なのである。

球磨川では、八代市瀬戸石駅と球磨村楮木を結ぶ村営の渡しが2012年10月廃止された。船頭の高齢化と後継のなり手がなく、球磨川最後の生活の渡しが消えた。

高梁川では、1927年より約90年岡山県倉敷市の水江

と船穂間を運航し続けてきた木造の渡しが、2016年3月終わろうとしている。河川改修で分断された水江地区の交通として運航されてきたが、新橋が開通し、2016年3月で市道認定が解除されることによって廃止がきまったという[産経新聞2015年10月3日付]。水上遊覧として復活を求める声もあるようだが、実現するにはいくつかの社会整備が必要なようだ。

確かに他県に目を移せば、福島県只見川の霧幻峡渡しや和歌山県日置川の安居の渡しのように、45年～50年ぶりに復活した例もある。前者は鉾山で栄えた三更集落で霧幻の景色を見せたいとの考えから再現された。後者は熊野古道をあるく旅人のルートを支えたもので、いずれも木造船で復活している。課題は、常時運航とはならず、事前予約が必要であり、また運営者の都合によって運航できない場合もある点だ。過疎等の地方の実状を考えるとやむをえないことだが、いけば必ず乗れる日があること、その場所と接続する公共交通アクセスもしくは駐車スペースが確保されていることなどが、渡し場観光を成立させていくには重要な要件となろう。

## 5 舟下りのゆくえ

舟下りは、最上川・阿武隈川・阿賀野川・荒川・木曾川・天竜川・大堰川(桂川)・熊野川・球磨川など比較的規模の大きな河川で実施される。多くは変化に富んだ急流等を含む中上流のワンウエイの川下りであるため、戻りはマイクロバスや最寄りの公共交通を使って帰るやり方だ。距離が長くなる分、時間も長く、1時間から1時間半ほど、値段は2000円前後から4000円弱が相場となる。丸太を組んだ筏を使った観光筏流しは、木材流送がさかんだった天竜川と北山川の2箇所



写真10 梟鼻溪の舟下り(岩手県)



写真11 鬼怒川の舟下り（栃木県）



写真12 球磨川の舟下り（熊本県）

で現在実施され、金額は6000円以上と高めとなる。

「五月雨を集めてはやし、最上川」は東北を旅した芭蕉の残した句であり、だれもが知っている。最上川の場合、2010年現在、年間訪れる遊覧客は8万人、テレビドラマ「おしん」の舞台となったことから、放映当時は35,6万人の来訪者があったという。海外からは台湾からの客が多いらしい。乗船した会社の場合、船頭40人で、女性の船頭が4人、これに新米の見習い船頭が加わり、他の2社とあわせ大事な雇用場所であることがわかる。40隻の船を保有し、団体客にも対処できる。一方対岸の集落は無住化が進んでおり、その結果人気のない悠々たる風景が最上川の醍醐味となっている。戸沢村古口から草薙温泉港まで12キロ、舟下りはけしきとともに船頭の話術も重要だ。場所によっては説明のテープを流して下るところもあるが、名物船頭の話術で見せる舟下りは相対的に成功している。また船頭の技能を高めることも近距離の船めぐり以上に重要である。ひとたび事故がおこると客足をもどすのは至難であり、ともしれば廃業にまで追い込まれて

しまうからだ。

浜松の天竜川下りは2011年8月の大事故により2012年3月廃止となった。事故後国土交通省は安全対策にかかる委員会を開催し、原因や安全性の究明、対策等が検討され、ガイドラインとなる安全対策の調査研究報告書も開示された〔日本小型船舶検査機構2013〕。

木曽川の日本ライン下りは、岐阜県的美濃太田と犬山橋を下る全長13キロのコースで、大正2年（1913）愛知県出身の地理学者・志賀重昂が木曽川をドイツのライン川になぞらえたことから知られるようになった場所である。1920年代の新聞の紙面見出しにはしばしば登場し、日本ラインの名は昭和のはじめにはすっかり定着していた。

木曽川は、舟下りのメッカとなり、ラインの名は川下りの代名詞として、最上川や阿武隈川・鬼怒川・荒川・天竜川などに飛び火していった。栃木県の鬼怒川の舟下りが誕生したのははるか遅く1960年のことである。そこでも鬼怒川ラインの名が使われ、今日にいたる。開業当時のニュースには「東の長良川」が実現した」とあるように〔読売新聞1960年8月12日〕、岐阜から鶴岡を分家して実施する試みもみられた。

2011年3月に訪れた日本ラインの発着所は立派に河川整備されていたが、その事業承継は安泰とはいえず、2003年から引き継がれた事業は、1970年代の年間40万人をピークに3万人程度にまで落ち込み、2013年3月に休止となった。天竜川の事故も影響し、2015年現在、再開にはいたっていない。

また、淀川では枚方から八軒家にいたる舟旅が再興された。江戸時代京都の伏見と大阪の八軒家の間を三十石舟が行き来した長さ約40キロにおよぶ全線の半分で、年に数度の運航が実施されている。枚方より上流は浅瀬も多く、舟を走らせることはまだ実現していない。奇岩や急流等自然のおりなすけしきとは異なり、この間の風景は、高い堤防が続く単調さが課題である。船頭衆の話術や唄、解説、茶菓子の接待等で趣向をこらす工夫がなされているが、魅力あるコースとなるには風景の側の工夫が必要だ。水陸両用車や屋形船、外輪船、砂利船などがゆきかう八軒家の発着所の賑わい、伏見にみる三十石舟、十石舟のゆきかう賑わいの成功に照らせば、その要所・要所にみる賑わいの創出が鍵をにぎるように思われる。枚方・八幡でいえば、ものを売るくらわんか舟の賑わい、高速道路がクロスし、現代の陸の交通要衝でもある八幡山と天王山にはさまれた三川合流地での桜堤と『芦刈』の渡しの賑わいの創出は、今後考慮されてよい場所なのである。

## 6 池・堀割の点景—細く・長く

乗船料で収入をえて遊覧事業を運営する場合、いかに多くの乗客を、1年を通じて確保できるかが重要な鍵を握る。ゆえに集客に見合った船の大型化や、隻数・便数の増加は事業拡大の基本事項となろう。ところが各地の河川観光舟運を見ていると、こうした方向とは一線を画し、集客をあげることを一義としない事業が近年は出現しはじめている。つまり舟が浮かんだ景色を新たな点景の創出と位置づけ、遊覧事業は規模拡大することなく、定員5~6名、1~2艘程度の規模を維持するやり方だ。岡山県倉敷市の美観地区で2006年から始まった倉敷川の川舟流しはその先駆けである。舟は、2004年ライオンズクラブから寄贈された木造テンマ船1艘のみで、乗船定員は5名という小舟である。漁船等の操縦経験のある5人のベテランに5人の素人が3か月の特訓をうけ、客を乗せて運航するようになった。2007年調査時には、すでに1名がやめ9人体制だったが、1日2名が交替で30分おきに操船し、土日は最終便まですぐに満員御礼となる盛況ぶりであった。船頭は1年契約で、年齢は50代が1人、60代が4人、70代4人と、その大半が年金をもらいながらの仕事である。運航は3月から11月、原則月曜と雨天はお休みという日程で、当時は1艘だけだったが、その後夜の運航やウエディングの貸切運航も開始され、舟は2艘に増加、12月から2月も休日の運航が実施されるようになった。この取組みは観光遊覧を構想する他の名勝地にも少なからず影響をあたえてきた。同様の取組みは、香川県の名庭園で知られる栗林公園でも2012年から始まっている。定員6名の棹こぎの木造小舟が30分間隔で静かに庭園の池を散歩する。始めるにあたって船頭らは岡山に見学に出かけたという。さらに香川県では高松の玉藻公園で2014年から海水が入り出す城跡の堀を利用した舟めぐりが1艘で開始された。これらはいずれも予約方法をその日の現地予約に限定し、満席になれば打ち止め、それ以上は運航しないやり方である。したがって乗れる人数には限りがあるが、点景としての美観を損ねない運航のスタイルが受け入れられ、乗れても乗れなくても風景として楽しめるしかけとなっている。

類似の取組みは、兵庫県姫路城の堀でも始まっている。2012年3月から堀めぐりの試験運航ののち、2013年3月からは新造和船による運航が開始した。2008年全国菓子博覧会が姫路城近くの会場で催された時にも



写真13 栗林公園（香川県）

開催期間限定で堀の遊覧が実施されたことがある [出口・出口2010]。このときは、近江八幡の水郷めぐりの舟を借りたものだったが、今回は江戸時代にさかのぼる歴史を掘り起こし、舟の建造からの取組みとなった。堀近くの船場川で高瀬舟が物資輸送に使われていたことを示す絵図資料、内堀には屋形舟が浮かび、本城や武蔵野などから西屋敷に往来するのに使われたとする研究書等を根拠に [松木・金田2015:5]、当地方で使われてきた木造の高瀬舟が遊覧船の形となった。若手舟大工の技術養成をはかりつつ、遊覧事業を軌道にのせ、県下にある国の重要無形民俗文化財である赤穂市坂越の船祭りで見られる木造船の技術継承等を一層確実にしていくねらいもある。また高瀬舟の船頭の指導には、子供の頃から伝馬船をこぎ、かつて練習帆船・あこがれのスタッフとして携わった槽こぎ技術の熟練者があまっている。こうした取組みは長らく修復中で内部を見学できない時期の姫路城を支える新名所としても一役買った。現在は乗船定員を2名増やし14名で運航している。

江戸時代にさかのぼる歴史の再現という文脈が重視され、定員の小さな小舟を1~2艘で就航する。集客という点ではさしたる収入がえられるわけではないが、水の点景を生み出し、新たな見せ場を創出している点で観光資源効果をもつ。こうしたいたって小規模な観光舟運は、今後他の歴史的町並みなどでも広がることが予想される。共通するのは、使われる舟がFRP船ではなく、いずれも歴史の文脈に近づけた「絵になる木造船」であることだ。これらの場面では、木造船もまた十分活かせる機会がある。と同時にローカルな和船技術をどこまで確実に継承していけるかが問われているのである。

## 7 おわりに

以上、全国の観光舟運を俯瞰し、その傾向と課題について検討してきた。

観光を通して遺産化を促し、伝統技術や民俗文化を保全・継承する取組みは、こと日本の和船文化の継承において必須のものとなっている。しかもその確実な方法は、大きく2通りある。岐阜市のように戦略的に文化財保護の制度を活用し、舟大工や船頭の無形文化財化を推し進め、保護継承していく方法と、猊鼻溪や鬼怒川、天竜川などのように、船頭が舟大工を兼務することで安定的に双方の技術者を育成する方法であり、そうした回路をもつか、つくりあげる取組みをしたところが生き残っていくと予想される。

さらにいえば、舟大工や船頭だけでなく、鋸の目立てや舟釘等の鍛冶職の継承についても考慮していく必要がある。つまり伝統技術のなにを、どこまで継承し、どこを刷新していくのか、木造船終焉期にみる観光事業という生きられた場合は、その議論と真価、実践が今、問われているのである。

## 付記

河川観光舟運のデータベース作成にあたっては公益法人・河川財団の研究助成「河川法改正後の観光舟運の現況と課題に関する全国調査」(2010年度)、「流域連携活動を通じた山河海をつなぐ一体化の調査」(2011年度)、「川を軸とした「日本の流域遺産」化の実践的研究」(2012年度)、「川を軸とした広域観光と「日本の流域遺産」化」(2013年度)をうけた。また、2013~15年度科学研究費基盤研究(C)「和船を活かした遊覧・船祭りの観光学—日本の流域遺産化をめざして」も一部使用した。

## 参考文献

- 片野温  
1953『長良川の鵜飼』岐阜市役所
- 可児弘明  
1966『鵜飼—よみがえる民俗と伝承』中公新書  
北井一夫・和田久士(写真), 大崎紀夫(文)
- 1976『渡し舟』角川書店
- 出口晶子  
1997『舟景の民俗—水辺のモノグラフィ・琵琶湖』雄山閣出版,(写真 出口正登)
- 2003『北陸の河川文化—黒部川の川舟』『甲南大学紀要(文学編)』129:60-78
- 2008『造船技術—列島の木造船, 終焉期のけしき』桃木至朗編『海域アジア史研究入門』岩波書店:199-207,(2012年 韓国語版 民俗苑 ソウル)
- 2011『生徒たちの木造船—ナリウテンマ新造記』『甲南大学紀要(文学編)』161:277-287,(写真 出口正登)
- 出口晶子  
2001『丸木舟』法政大学出版局(写真 出口正登)
- 出口晶子(文), 出口正登(写真)
- 2004『石川県知事知事のチヂブネ—中島町瀬嵐での建造記録』船の科学館叢書2
- 2007『保津川下りの川船—最後の木造船とFRP船への脱皮のころ』『川船—大堰川の舟運と船大工』亀岡市文化資料館:3-6
- 出口晶子, 出口正登  
2005『港の景観—民俗地理学の旅』昭和堂  
出口正登(編著) 出口晶子(著)
- 2010『琵琶湖周航—映像地理学の旅』昭和堂  
日本小型船舶検査機構
- 2013『川下り船等の安全性に関する調査研究報告書』(PDF版)
- 平生鈺三郎日記編集委員会(編)  
2010『平生鈺三郎日記』第1巻, 甲南学園  
北海道浦臼町役場・総務課企画統計係(編・発行)
- 2011『うらうす』566
- 松木哲(監修) 金田隆(編著者)  
2015年『姫路城の高瀬船の復元事業報告』姫路藩和船建造委員会・同技術委員会
- 文化庁国指定文化財等データベース  
岐阜市参考資料(PDF版)「長良川の鵜飼漁の技術」